

インターネット時代の専門書

Therapy for ocular angiogenesis : Principals and Practice

Arup Das, Thomas Friberg 編

数年前の臨床眼科学会総会の特別講演で Doheny 眼研究所の Ryan 教授が、「今は、基礎医学の成果がついに臨床医学の果実を生むに至ったゴールデンエイジにあるといえる」と述べた。これは、基礎研究、臨床応用、産業化、さらには米連邦政府によるレギュレーションなど、過去 40 年にわたりこの問題に第一線がかかわってきた Ryan 教授ならではの言葉であり、正鵠を得たものである。ゴールデンエイジに関しては、腫瘍学、外科学など多くの医学領域についても当てはまることであるが、眼科領域は特にそれがいえる。そして、その中心が眼内血管新生 ocular angiogenesis である。Angiogenesis は、故 Folkman 教授が提唱した現象であり、主に腫瘍増殖にかかわるものとして研究された。眼科領域では、糖尿病網膜症などの発症にかかわる因子として factor X が予言されたが、研究の結果、腫瘍血管新生因子と眼内血管増殖因子 (factor X) は重なり合うことがわかり、眼内血管新生研究は大いに発展した。そして、血管内皮増殖因子 (VEGF) が主要分子であることが解明され、現在の抗 VEGF 療法の隆盛につながっている。

基礎から臨床、経済まで網羅する内容

本書は、この眼内血管新生について Das 教授と Friberg 博士によって編集されたものである。Das 教授は糖尿病網膜症の権威 Frank 教授、前述の Ryan 教授のもとで研究を行い、主に基礎糖尿病網膜症研究を専門としている。2010 年夏、アメリカ国立眼研究所で企画された糖尿病網膜症のセミナーを主催し、現在米国糖尿病網膜症研究の中心人物である。Friberg 博士は、抗 VEGF 療法の先駆的役割を果たしていることで、わが国でも有名である。従来の医学書は、少数の専門家により執筆されたものが多かった。その場合、執筆者の医学に対する深い洞察が内容に織り込まれ、それが本の価値になっていた。学問が人によって行われるものである限りは、この考えは正しく、今後も継承されてゆくであろう。ただし、研究内容が多岐にわたり、急速に変化している現在において、少数者の執筆では

研究領域をカバーすることは不可能である。そこで、最近は多数の研究者により執筆されることが多くなっている。本書も、その形式をとっており、現在の眼内血管新生研究を代表する 100 人近い専門家が執筆している。そのおかげで、内容は多岐にわたり、血管新生研究の歴史、眼内血管新生のメカニズムから、現在行われている抗 VEGF 薬治療、ステロイド治療とその問題点、さらには今後臨床応用が期待されている方法まで網羅されている。

特に他と異なるのは、現在の抗 VEGF 薬に関して、注射の方法、OCT の読み方、再投与の方法などの技術的側面から、この治療がクリニックの経営や社会経済に及ぼす影響についてまで広く解説されている点である。医療が高度に発達し、医療産業が米国の主産業となっている現在、科学としての医学を語るだけでは、実際の臨床医学について語るには不十分である。今後、わが国でも同じように広い観点から眼科学を評価せざるをえなくなるのは避けられず、そのことを学ぶには本書は最適であるといえる。また、いまだ最終結果が出ていない現在進行形の治験についても言及されており、今後の治療の動きを予想するうえで有用である。将来の治療については、遺伝子治療や細胞治療などの遠い将来の治療から、ラパマイシン、インテグリン治療など、現在治験が行われつつあるものまで網羅されている。そこで述べられている「現在の抗 VEGF 薬治療だけでは、今後の眼内血管新生疾患は克服できない」という予言は示唆に富むものである。

本書の 2 つ目の特徴は、そのレイアウトである。内容がコンパクトにまとめられているだけでなく、カラー写真や図がふんだんに使われていてわかりやすい。特に重要な点やトピックは Box にまとめられており、受験参考書を思わせる構成である。読者が最も理解しやすいレイアウトの究極形が受験参考書であるといわれているが、その意味からわかりやすさに十分に配慮されたレイアウトであり、専門書にありがちな、とっつきにくさはない。

インターネットを通じて常に内容をアップデート

さらに、本書には非常にユニークな特徴がある。本書の背表紙にコード番号が隠されており、本書を購入するとその番号が獲得できる。そして、そのコード番号を通じてインターネットにアクセスすると、本中のすべての図を電子媒体で獲得できる。最近のプレゼンテーションでは、いかに聴衆を引き付けるかが重要視され、そのなかで講演スライドの果たす役割は大きい。講演スライドの制作にいつも四苦八苦する身としては、このシステムは非常に魅力的である。また、現在進行形の治験や研究が報告されると、ただちに結果がアップデートされる。つまり、本書を通じてその情報にアクセスすることで常に最新の情報を得ることができるのである。これはインターネットがなかった時代

には不可能であったことであり、この本の大きな強みである。今後は、これが学術書のひとつの形になるであろう。

現在、臨床現場で仕事をしている医師が、抗血管新生治療の原理を知りたいとき、あるいは基礎研究者が臨床の状況と今後の開発展開を知りたいとき、いずれの場合も本書は非常に強い味方になってくれる。しかも、インターネットを通じて最新の情報にアクセスできるのである。この本は、眼科医にとって不可欠なものになると思われる。

鹿児島大学教授・眼科 坂本泰二

ハードカバー 頁 464 2010 年
[ISBN978-1-605-47640-7]
Lippincott Williams & Wilkins